

**Press Release**

持続可能な社会づくりの担い手を育む教育（ESD）・研究で連携

成蹊学園と国立極地研究所が包括的連携協定を締結

【取材のご案内】協定調印式開催 日時：12月17日（月）11：00～ / 会場：成蹊大学

成蹊学園（東京都武蔵野市：学園長 亀嶋 庸一）と大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立極地研究所（東京都立川市：所長 中村 卓司）は、ユネスコが推奨する ESD（持続可能な社会づくりの担い手を育む教育）において連携し、その協力関係を強化していくための包括的連携協定を締結いたします。私立学校法人が国立極地研究所と包括的連携協定を締結するのは国内で初めてのものです。つきましては、下記の通り協定調印式を執り行います。

成蹊学園は、100年前の学園創立以来より ESD の理念に通ずる実学教育、環境教育を実施してきました。2018年4月にはサステナビリティ教育研究センター（ESD センター）を開設し、学園全体で ESD を推進していく体制を整えています。また、国立極地研究所は、南極・北極をフィールドとした科学研究を進めるとともに、大学共同利用機関として、極域観測設備の提供、試資料・学術データの提供、共同研究の公募などを通じ、全国の研究教育機関の活動に貢献しています。これまでも両者は、成蹊学園のシンポジウムでの南極・昭和基地からの中継や、共同研究の実施など、教育・研究面での交流を続けてきました。

この協力関係をより一層強化し、社会に向けた環境教育・研究情報発信等で連携しながら「地球環境の中の武蔵野地域」という視点での新たな環境教育を実践することで、地域・社会の持続可能な発展、活性化に貢献することを目指します。

— 記 —

日 時：2018年12月17日（月）11：00～12：00（予定）

場 所：成蹊大学6号館6階602会議室（東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1）

出席者：成蹊学園 学園長 亀嶋 庸一、成蹊学園 ESD センター 所長 池上 敦子（成蹊大学理工学部教授）

ESD センター 副所長 小田 宏信（成蹊大学経済学部教授）、成蹊大学理工学部教授 藤原 均

情報・システム研究機構 国立極地研究所長 中村 卓司

情報・システム研究機構 本部事務局立川共通事務部長 松尾 淳

式次第：1.概要説明 2.調印式 3. 記念撮影 4. 質疑応答（予定）

**【ご取材に関するお願い・ご注意事項】**

申込方法：12月14日（金）までに、成蹊学園 広報グループ（0422-37-3517）にお申込みください。

当日受付：当日の報道受付開始時間は10：30を予定しています。

受付場所：成蹊大学6号館6階602会議室

本件に関する報道機関からのお問い合わせ

成蹊学園 広報グループ 担当：栗林 TEL: 0422-37-3517 Email: koho@jim.seikei.ac.jp

国立極地研究所 広報室 TEL:042-512-0655 Email: kofositu@nipr.ac.jp

## ■ ESD (Education for Sustainable Development) について

ユネスコが推奨する ESD は、「持続可能な社会の担い手を育む教育」です。ESD のねらいは、直接的には、持続可能な開発に関する価値観（人間の尊重、多様性の尊重、非排他性、機会均等、環境の尊重等）を共有することですが、それを通じて、体系的な思考力（問題や現象の背景の理解、多面的かつ総合的なものの見方）、代替案の思考力（批判力）、データや情報の分析能力、コミュニケーション能力、リーダーシップなどを育みます。小学校から高等学校までの現行の学習指導要領にも ESD の観点が盛り込まれています。

## ■ 成蹊学園サステナビリティ教育研究センター (ESD センター) について

2018 年 4 月、小学校から大学院までの連携によって持続可能な開発のための教育 (ESD) を学園全体で進めることを目的として、成蹊学園サステナビリティ教育研究センター（以下、ESD センター）が発足しました。ESD センターでは、成蹊学園が創立以来取り組んできた環境教育（実験や観察、校外学習を通じた本物にふれる体験学習）を推進するために、小学校から中学・高等学校、大学（大学院）までをつなぎ、また、成蹊とさまざまな学校や研究機関、市民などを結ぶハブ（拠点）としての役割を目指しています。ESD に関連する様々な活動を通じて、児童、生徒、学生の将来を考える力や意識の向上、そして、学園内の各校や地域における知的好奇心の向上と持続可能な社会の構築に貢献します。

## ■ 成蹊学園のこれまでの ESD の取り組み (国立極地研究所との連携も含む)

成蹊学園では、成蹊小学校の開設時からの 100 年に及ぶ栽培活動の歴史、旧制成蹊高等学校の開設時からの 90 年の気象観測の歴史に代表されるように、体験型・観察型の理科・環境教育が学園の教育を特徴づける非常に重要な存在であり続けてきました。また、大学の発足後しばらくは大学の地学・地理学教室が中学・高等学校と連携して地域環境に関わる研究・教育を推し進める姿もありました。他にも、高校の生物の授業におけるショウジョウバエ飼育なども代々の卒業生に語り継がれている取り組みであり、近年では夏の学校における植生観察なども重要な実績になっています。持続可能な社会の実現を念頭に自らの体験・観察に基づいてデータを収集・分析し発信させるというアクティブ・ラーニングによる教育手法は、ESD として知られるようになってきましたが、成蹊学園は長い歴史のなかでこれを実践してきた実績があります。

また、国立極地研究所の協力のもと、「地球と宇宙 特別授業 (成蹊小学校)」や「オーロラと宇宙 シンポジウム (学園全体)」を開催し、南極・昭和基地との中継や、国立極地研究所教員を講師に招くなど、「本物にふれる環境教育」を実施しています。



地球と宇宙 特別授業



オーロラと宇宙シンポジウム



南極・昭和基地との中継

### 本件に関する報道機関からのお問い合わせ

成蹊学園 広報グループ 担当：栗林 TEL: 0422-37-3517 Email: koho@jim.seikei.ac.jp

国立極地研究所 広報室 TEL:042-512-0655 Email: kofositu@nipr.ac.jp

## ■ 国立極地研究所について

国立極地研究所は南極圏・北極圏に観測基地を擁し、極域での観測を基盤に総合研究を進めています。大学共同利用機関として、全国の研究者に南極・北極における観測の基盤を提供するとともに、共同研究課題の公募や、試資料・情報提供を実施するなど極域科学の推進に取り組んでいます。

さらに、日本の南極地域観測の中核機関として、観測計画の企画立案、観測基地施設の維持管理と運営、観測隊の編成準備、各種訓練、観測事業に必要な物資の調達、搬入計画の作成や観測で得られた試資料の収集、保管などを行っています。

北極域では、スバル、グリーンランド、スカンディナビア北部、アイスランド等の陸域を観測拠点として、大気、氷床、生態系、超高層大気、オーロラ、地球磁場等の観測を実施しています。また、北極海やグリーンランド周辺における海域等においても海洋生態系・大気観測をそれぞれ実施しています。2015年度からは、北極域研究推進プロジェクト（ArCS）の代表機関として活動しています。

大学院教育では、総合研究大学院大学複合科学研究科極域科学専攻として5年一貫制博士課程による学生を受け入れ、幅広い視野を持った国際的で独創性豊かな研究者の養成を図っています。そのほか、特別共同利用研究員や共同研究育成研究員等の制度で全国の大学から大学院生を受け入れ、若手研究者の育成に務めています。また、現役の教員が南極から日本の小中高校への中継授業を行う「南極授業」の実施、中高生南極北極コンテストの実施など、アウトリーチイベントを通じて次世代の育成に取り組んでいます。

本件に関する報道機関からのお問い合わせ

成蹊学園 広報グループ 担当：栗林 TEL: 0422-37-3517 Email: koho@jim.seikei.ac.jp

国立極地研究所 広報室 TEL:042-512-0655 Email: kofositu@nipr.ac.jp